

2013年10月31日

(ご参考)

マツダ株式会社
2014年3月期 第2四半期 決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役社長兼CEO

小飼 雅道

1. 総括

2014年3月期第2四半期累計実績の総括です。

財務実績は、SKYACTIV搭載車両の販売拡大等により、増収且つ全ての利益レベルで、大幅増益を達成いたしました。

売上高は1兆2,543億円、営業利益は740億円、当期純利益は250億円となり、売上高および全ての利益レベルで期初見通しを上回りました。

グローバルで販売好調なCX-5、新型Mazda6／アテンザが販売を牽引し、販売台数も、期初見通しを上回る63万1千台となりました。

SKYACTIV搭載車両第三弾である新型Mazda3／アクセラを、第2四半期末から北米より導入開始しました。主要市場で実施したローンチイベントでも高い評価を得ています。

通期の見通しです。

グローバル販売台数は、対前年10万台増の133万5千台の見通しです。

通期の利益見通しは、好調な業績動向ならびに為替前提の見直し等を踏まえ、営業利益は期首見通し1,200億円から1,600億円へ、当期純利益は700億円から1,000億円へ上方修正します。

下期は、新型Mazda3／アクセラを、北米に続いて、欧州、日本、オーストラリアなど順次主要市場に導入していきます。

構造改革プランも、SKYACTIVによるビジネス革新や新興国事業強化などの施策を確実に進めています。

常務執行役員

古玉 尚

2. 2014年3月期 第2四半期累計実績

当期は、増収増益となり、且つ、売上高および全ての利益レベルで、4月公表を上回る実績となりました。連結売上高は、対前年2,308億円増の1兆2,543億円、連結営業利益は、対前年625億円増の740億円となりました。これは主に、円高修正による増益効果と、SKYACTIV搭載車両による台数・構成の改善が寄与したものです。経常利益は363億円、税引前利益は339億円、当期純利益は250億円でした。為替レートは平均で 1ドル99円、1ユーロ130円と、前年に比べ、ドルで20円、ユーロで29円の円安でした。

グローバル販売台数は、前年に対し1万8千台増の、63万1千台でした。特に、SKYACTIV商品の展開が進んでいる日本、北米、欧州、オーストラリアで好調な販売となり、前年を上回りました。4月公表に対しては、4千台の過達となりました。

車種別では、グローバルで販売好調なCX-5と新型Mazda6／アテンザが販売を牽引しました。また、販売手法を商品／ブランド訴求へ転換する、売り方革新を推し進めており、ネットレベニューの向上を実現しています。下期本格導入の新型Mazda3／アクセラは、SKYACTIVによるビジネス成長を更に加速させてまいります。

続いて、各マーケットの状況について説明します。

まず日本では、全需が2%減となる中で、対前年1%増の11万1千台でした。シェアは前年に対し0.1ポイントアップの4.3%となりました。SKYACTIV搭載車が販売を牽引しました。CX-5は2.5Lモデルおよび特別限定車を追加投入し、商品力の向上を図っています。新型アテンザも好調を維持しています。また、SKYACTIV技術を搭載したプレマシー、ビアンテなどミニバンも好調に推移しました。

北米では、対前年9%増の19万9千台の販売でした。米国では全需の伸び9%を上回り、対前年12%増の14万2千台でした。

フリート販売を抑制するブランド価値向上の方針を継続・強化しており、ノンフリートでは16%増の販売を達成しました。

2.5Lモデルを追加したCX-5は、69%増の4万3千台を販売し、今期本格導入ローンチとなる新型Mazda6の販売も順調に拡大しています。

欧州では、全需が2%減の中で、対前年14%増の9万7千台の販売でした。CX-5の供給改善や新型Mazda6の本格導入により、両車種とも、セグメントシェアを大幅に伸ばしています。特に主要国であるドイツと英国での販売が好調です。ドイツでは、対前年18%増の2万2千台、英国では、30%増の1万7千台となりました。

中国では、7万9千台の販売でした。8月にはCX-5の現地生産車の販売を開始し、9月末までに1万台を受注するなど、出足は好調です。このCX-5導入を機に、SKYACTIV技術の理解、浸透を目的とした広告宣伝活動を展開しています。また、店舗数は前期末から12店舗増えて、9月末では408店舗と、販売網の拡充も着実に進捗しています。

その他市場では、ほぼ前年並みの14万5千台の販売でした。

オーストラリアでは、販売は過去最高の5万2千台、シェアも8.9%と好調を維持しています。メーカー別販売では3位、セグメント販売台数では、CX-5とMazda2が首位、Mazda3はモデル末期ながら2位となるなど、モメンタムを維持しています。

ASEANでは、タイが、初回購入補助金終了後の反動により減少したものの、それ以外の市場では前年比増を達成しました。

マレーシアでは、現地生産を開始したCX-5で台数を伸ばし、過去最高の販売台数およびシェアを達成しました。

次に、連結営業利益の前年に対する改善額625億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、213億円の改善となりました。グローバルで販売好調なSKYACTIV搭載車が、収益にも大きく貢献しています。

為替は、USDで193億円、ユーロでは187億円、その他通貨は223億円と、合計で603億円の改善となりました。

変動コスト領域では、コスト改善の推進により、107億円の改善となりました。

販売費用は、新型Mazda6のグローバルローンチに伴う広告宣伝活動強化などにより、124億円の費用増となりました。

また、その他 固定費領域では、開発費、メキシコ立ち上げ費用等将来の成長に向けた投資の増加により、174億円の費用増となりました。

3. 2014年3月期 見通し

通期利益見通しは、売上高および全ての利益レベルで、4月公表に対して上方修正をします。

売上高は2兆6,500億円、営業利益は1,600億円、当期純利益は1,000億円の見通しです。

営業利益については、前年から1,061億円の改善、4月公表からは400億円の増加の見通しです。

それぞれの要因については後ほどご説明します。

下期の為替は、ドル・ユーロそれぞれ、95円、125円の見通しです。

グローバル販売台数は、前年比10万台増の133万5千台の見通しです。

上期は計画を上回る実績となりましたが、タイを中心とした新興国の販売環境が不透明なことから、通期見通しは4月公表から据え置きます。下期の販売取組みについては、後ほどご説明します。

続きまして、前年からの営業利益改善、1,061億円の要因について説明します。

台数・構成では、SKYACTIV搭載車両の販売拡大により、620億円の改善見通しです。

為替は、USDで322億円、ユーロで311億円、その他通貨で267億円改善し合計で900億円の改善となる見込みです。

コスト領域では、原材料価格値上げをオフセットし157億円改善する見込みです。

販売費用は、グローバルでのSKYACTIV搭載商品を中心とした販売強化により、204億円増加します。

また、その他固定費は、開発費の強化およびメキシコのローンチ費用等により412億円増加の見通しです。

次に、4月公表からの営業利益変動、400億円の要因について説明します。

台数・構成では、CX-5、新型Mazda6を中心とした台数増および車種ミックス改善効果により、121億円の改善見通しです。

為替は、上期実績および下期前提を見直したことにより、USDドルで152億円、ユーロで104億円、その他通貨で84億円改善し、トータルで340億円の改善となる見込みです。
販売費用は、21億円の増加、その他固定費領域では40億円の増加を見込んでいます。

それでは、下期のグローバルでの販売取組みについて説明します。

最量販モデルである新型Mazda3／アクセラを主要市場へ順次導入し、SKYACTIVによるビジネス成長を更に加速させてまいります。

上期には中国、マレーシアでCX-5の現地生産を開始し、SKYACTIV搭載車の供給体制を拡充しました。中国ではCX-5の2.5Lモデルを追加導入し、下期からの反転攻勢を図ります。タイでは、初のSKYACTIV搭載車としてCX-5のマレーシア生産車を導入します。

また、ブランドイメージ向上を狙い、広告宣伝活動を強化してまいります。

今下期は、好調なSKYACTIV搭載車のモメンタムを更に加速させ、中長期見通しの達成に向けた台数成長を目指します。

代表取締役社長兼CEO

小飼 雅道

4. 構造改革プランの進捗

SKYACTIV搭載車両の投入に伴い販売力の強化に取り組んでいます。

個別のクルマではなく、「マツダ」というブランドにフォーカスしたキャンペーンをグローバルで実施し、ブランド価値の浸透を図っています。

マツダグループ全体で、マツダのクルマの設計思想や商品特性を共有したうえで、その商品価値をお客様に徹底して訴求するインサイドアウト活動を展開しています。

こうした活動を通じて、商品価値を正しくお客様に理解いただいたうえで適正な価格で提供する正価販売を推進し、ネットレベニューの改善と高い残価を実現しています。

また、購入後もお客様の期待に応えるカスタマーケアを徹底することでブランドロイヤリティの向上を図っていきます。

続いて、新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築です。

メキシコ新工場は第4四半期の稼働開始に向け、準備は順調に進捗しています。

また、エンジンの機械加工工場も新設することを決定し、2014年10月の稼働開始を目指します。

メキシコ生産車は、FTAを活用し、北米・中南米、並びに欧州へ供給していきます。

グローバルでのSKYACTIV搭載車の販売拡大に対応するため、国内でエンジンおよびトランスミッションの生産能力を増強します。

ASEAN地域での事業強化策として、カンボジアやミャンマーにも市場参入を決定し、加盟10カ国でのマツダ車を販売します。

マレーシアで現地生産しているCX-5をタイ向けに輸出し、ASEANでの販売を拡大します。

5. まとめ

第2四半期累計実績は、販売台数、売上高および全ての利益レベルで、期初見通しを上回る実績となりました。

CX-5、新型Mazda6／アテンザなどSKYACTIV搭載車両は、引き続きグローバルで販売モメンタムを維持しています。

通期見通しは、好調な業績動向ならびに為替前提の見直し等を踏まえ、営業利益は1,600億円へ、当期純利益は1,000億円へ上方修正します。

下期は新型Mazda3/アクセラを順次主要市場へ導入します。これによりSKYACTIV搭載車両の販売比率は、通期で前期31%から今期50%に増加する見通しです。

メキシコ新工場やASEAN諸国での販売網拡大など、新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築も順調に進捗しています。

以上